

放送業界に係るプラットフォームの在り方に関するタスクフォース（第6回） 議事要旨

1 日時

令和5年8月25日（金）13時00分～14時06分

2 場所

総務省内会議室及びWEB

3 出席者

（1）構成員

内山主査、大谷構成員、落合構成員、クロサカ構成員、坂本構成員、仙北構成員、
長田構成員、松下構成員、三友構成員

（2）オブザーバー

日本放送協会、（一社）日本民間放送連盟

（3）総務省

竹内総務審議官、小笠原情報流通行政局長、山崎大臣官房審議官、
金澤情報流通行政局総務課長、飯倉同局放送政策課長、山口同局放送技術課長、
佐伯同局地上放送課長、飯嶋同局衛星・地域放送課長、飯村同局情報通信作品振興課長、
岸同局国際放送推進室長、後白同局放送政策課企画官、細野同局放送政策課外資規制審査官、
渡辺同局地上放送課企画官、金子同局地域放送推進室長、平野同局地域放送推進室技術企画官、
向井同局情報通信作品振興課放送コンテンツ海外流通推進室長

4 議事要旨

（1）取りまとめ案について

事務局から、資料6-1に基づき、説明が行われた。

【内山主査】

本タスクフォースの取りまとめは、事務局提示の案のとおりでよろしいでしょうか。

特に疑義が上がらないようでございますので、この取りまとめで一旦まとめさせていただきたい
と思います。今後でございますけれども、親会へ報告、その後にパブリックコメントという形で続

いていく予定になっておりますので、また引き続きよろしくお願ひしたいと思います。

(2) 意見交換

各構成員から、以下のとおり意見交換が行われた。

【大谷構成員】

今回短期間の検討でございましたけれども、有益であったのはローカル放送の担い手や制作サイドを含めて、生の声を聞く機会をつくっていただいたことであったかと思ひます。御協力くださったローカル局、制作サイドの皆様、それから関係するプレゼンをしてくださった皆様には御礼申し上げたいと思ひます。

その際に自由に率直な御提言をいただいたことによりまして、放送プラットフォームの在り方についてNHKに期待すべき役割、NHKに果たしていただくべき役割というのが具体的に展望できるようになったと思ひます。特に関係者の協働の必要性をより強く認識することができたと思ひております。

取りまとめ案14ページ、今後の進め方というところにはっきり記載いただいたように、関係者の協調を進めるに当たっては将来的な展望を見据えた上で、これまでは必ずしも関係が密でなかった場合も含めて、関係者の範囲を捉え直すことが必要だということに記載していただいております。このタスクフォースを通じて、今まで関係が密でなかった関係者の間でコミュニケーションを取るきっかけになったのであればよかったですし、それぞれコミュニケーションを深めていただく上で課題認識をまず共有していただくことは改めて強調したいと思ひております。

個人的に強い関心を持っておりましたのが、放送コンテンツのインターネット配信の推進の部分です。放送コンテンツをデバイスによらず視聴できる環境を確保してほしいというのが当たり前の時代で、海外のプラットフォーマーの提供するコンテンツとの激しい競争に巻き込まれている中で、そういう環境の中で信頼性がある地域情報を得ることができる放送コンテンツに視聴者が触れることができる環境をネット上に確保するということが重要と考えます。今回、はっきり書いていただきましたように一覧性のある画面を考える必要があること、そしてコネクテッドTVについて実証事業を今年度中に開始し、来年度中には技術仕様を策定するという、この点が明確にされたことに大きな意義があると感じております。

最後に、今後の期待について2点ほど述べておきたいと思ひます。一つは、外部制作比率についてでございます。NHKにおかれましては、外部制作比率の新たな目標というのを尊重していただきまして、制作会社に新たなコンテンツを制作する機会を提供していただくとともに、衛星チャンネルにおけるコンテンツの充実、そして外部制作会社の人材育成についての貢献に真剣に取り組ん

でいただければと思います。

2点目でございますけれども、コネクテッドTVなどを通じて放送コンテンツを視聴する場合の視聴データの取扱いでございます。メタデータの取扱いも含めて、視聴者にとって安全かつ安心で透明性のある仕組みを実現し、これは広告収入によってコンテンツ制作を行う民放におかれましても、広告の効果をスポンサーの方に説明できる環境を整えていくのは今から手をつけなければいけないことだと思っておりますので、その検討がさらに進展することを期待したいと思います。

【落合構成員】

今回、短期間ではありましたが様々なテーマについて議論をして、NHKの具体的な協力について議論ができたことは非常に良い結果になったのではないかと思います。

全体としては民放連の方々もおっしゃられておりますが、NHKにおいて放送、メディアのプラットフォームになっていただく役割が今後期待をされると思います。今後のNHKのそういった位置づけの変化、純粹に放送を流すプレーヤーとしての放送事業者というだけではなく放送業界全体、メディアも含めて背負っていく存在になっていくことを改めて言葉としてテーマを設定できたことが重要であったと思いますし、今後さらにそれを形にしていくことが何より重要だと思えます。

これは「デジタル時代における放送制度の在り方に関する検討会」全般として、民放の方々にとっての経営の選択肢を増やしていくためにどういう施策を行っていくかという中で、NHKの協力もそのための手段の一つとして位置づけられるのではないかと思います。そういった意味では二元体制がインターネットの世界においても発揮されていくことが放送としては期待されますし、また、それがひいてはそのほかのメディアも含めた多元的な議論に資するような形になっていくことが今後、改めて期待されると思えます。

その上で、今後の検討に当たっての重要なポイントとしましては、インフラの部分について実際に民放の方々がメリットを得られるような形が実現できるのかどうか、精緻に議論をしていくことが一つ、重要ではないかと思っております。この部分については取りまとめの中でも全国的な議論と地域ごとの議論それぞれが必要とされております。もちろん地域の特性や、様々な関係者の方々の状況などによって協力が必要なのかどうか、協力をするときにはどのような形だといいいのかということがそれぞれ違う部分はあると思えます。いずれにしてもできる限り経営の選択肢を増やせるように、ただ、それに当たっては具体的にどの事業者の方がどういう形でメリットを得られる可能性があるのか、これを明確にしていくことが重要と思えます。これはブロードバンド代替の検討などでも次第に積算を数値化していっているプロセスであります。そういうものとも連携しながら、ぜひメリットの明確化を進めていけるといいのではないかと思います。

また、NHKを中心として番組制作に関するエコシステムをさらに発展させていくことも重要だと思っております。放送コンテンツの制作・流通の促進に関するワーキンググループなどでも議論されておりましたが、基本的には全体としては放送事業者を中心としたエコシステムを想定して、この放送の場の検討を行っているところではす。クリエイターや制作会社、制作に関わる方々も含めて、実際に適切にお金が回る形になっていくことは持続可能なエコシステムを形成する意味で重要だと思います。番組制作や衛星放送を中心に外部制作事業者との関係について議論しておりましたが、実効性を持つ形で仕事がうまく回る形を一層追求していただければと思います。

今後、インターネット配信、国際放送も進めていただくとと思いますが、その中で先ほど大谷構成員もおっしゃられていた視聴データの点については、NHKとの協力だけに限らず改めて整理をしていくことが必要でありましようし、それとの関係で私は何度も申し上げておりますが、広告に関する整理を行っていくことはこの二元体制を深めていく意味で重要な論点になってくると思います。視聴データの活用、また広告の取り方、広告による費用の分配の仕方などをしっかり深めていただくとことは重要だと思います。

また、こういったインターネット配信に当たって著作権処理や番組制作のノウハウなど、ハード面にとどまらない、ソフト面も含めたNHKの協力ということが求められてきていると思います。その際にノウハウを共有していただくことは当然ながら、さらに著作権の関係ではちょうどこのタイミングではあまり議論はできておりませんでした。同時配信等の権利推定だけではなくて簡素な一元処理、放送の同時配信等よりもオンデマンドなどが含まれてくる部分もあると思いますが、こういった部分も含めて利用の方策を深めていただければと思います。

【クロサカ構成員】

まず、全体を通じて今回の議論、非常にコンパクトではありましたが活発に議論できたのではないかと考えております。改めて日本の放送ということ考えたときに、NHKと民放による二元体制、これを基本として発展してきており、この中で民間放送局の広告収入の減少であるとかインフラの老朽化といった現状がある、これは親会やほかのワーキング等でもまさしく課題意識を持っているところです。

そのため、今後もこのあまねく放送を届けていくことを、実現していく、維持していくために、NHKと民放が協力すべき状況であることが個別論点でも明らかになったということ、これは実は非常に大きな意義があるのではないかと考えております。

その前提のもとに個別1から5まで申し上げたいと思いますが、まず1つ目の放送ネットワークインフラの効率化については、このタスクフォースが検討が進む機運の醸成に貢献できたのでは

ないかと思っておりますが、一方で、これを実現していくためにはより営利性のある事業にしてい
くことが、とりわけ自走していくためには重要だと思えます。

NHKに中心的な役割を担う一つとなっていただくこと、これは間違いのないのですが、民放はも
ちろん、それだけではない、放送業界の枠を超えた意欲ある事業者の方々との協調ということをし
ひ視野の中に入れていただきたいと思います。このような方々との連携、提携ということもせ
ひ視野に入れていただきたいと思います。

一方で、どうしても東京中心で話が進みがちですが、地域経済、地域社会への貢献が重要な視点
ですので、これをパーパスにしていくことを改めて御留意いただきたいと思います。

2つ目の論点については前回、全映協の姫野事務局長がおっしゃっていたことが印象に残ってお
りまして、NHKの調達情報のウェブサイトがあったのを初めて知ったというお話がありました。
これは非常に重要な指摘でして、知らないほうが悪いだろうでは決してないはずで、DXとい
うのはゴールではなくて永遠に続く営み、運動だと考えておりまして、デジタル化というのは、先ん
じたものが遅れている方を助けるという、これが当然の営みなのだと思えます。

この当然を対応するというのが、仮にそれは営利の範囲ではなく非営利の範囲ということであれ
ば、まさに政府やNHKといった公共性の高い団体がここに貢献いただくという役割が期待され
るところだと思いますので、ぜひそういった方々が全員乗っかれるようにすることを目指していただ
きたいと思っております。

3番目、配信プラットフォームのところですが、議論はかなり多く出たと思えますけど、やはり
配信が主力の時代になったとしても放送が培ってきたトラストを維持、拡大していくことが極めて
重要だと思っております。まず、ここに軸足をぜひ置いて検討いただきたいと思いますということが一つです。

もう一つは、再三お話のとおりデータの扱いですが、単にビジネスの観点だけではなくユーザー
視聴者の利用環境改善という観点からもデータを十全に使えるということが重要だろうと思っ
ています。放送は特別ということではなく、やっぱり今日的には通信を基盤とした規範ということが
成立していることも含めて、このような趨勢を放送事業者も理解しながら、ともに課題解決に向か
い合っていただきたいと思います。

4番目の衛星放送については、B-SAT、スカパーJ-SATとの間の調整が必要だろうと思
います。お話を伺っていても、考え方の違いであるとか、時間軸の違いがあるかと思えます。取りま
とめ案にも検討の場を早急に設置、あるいは関係者の理解を得つつということがありますが、恐ら
く両者だけでは議論し切れない、ないしは壁にぶつかってしまうところがあるかと思えます。ぜひ
ここは、冒頭にも申し上げましたが、総務省にも間に立っていただいて精力的な検討を進めていた
いただければと思えます。

最後、国際放送はかなり忌憚ない議論をしていただいたのではないかと、御意見を出していただいたのではないかと思いますので、この現実を直視して、ぜひこういった検討を進めて具体化して、何が本当に現実的にできることなのか、意味のあることなのかということを追求していただきたいと考えております。

【坂本構成員】

様々な事業者の方のお話を聞かせていただいて、とても実のある議論ができたように感じております。改めて2点申し上げたいと思います。

1点目はコンテンツの活用についてです。日本の放送事業者や番組制作事業者が制作した優れたコンテンツというのは、放送だけにしか使われないのはもったいないということを改めて感じました。TV e rの利用が伸びていることもあるのですが、そういうことから分かるようにやはり非常に魅力あるコンテンツがたくさんあるということです。ネット空間でもさらに活用できるような方法を検討していただくことが重要かなと思っています。

そしてローカル局のコンテンツ、ローカル局が今後どうなるかということでこれも懸念されるのですが、ローカルのコンテンツについても優れたコンテンツもたくさんあると思いますし、また、本学などでも教育活動、いろいろ新しいことを取り組んでいることを地域の人に放送していただきたいみたいなのはあるので、身近な地域の情報を流していただく役割としても非常にローカル局は重要だと感じています。そして潜在的な需要もあると感じています。

地方は人口の急激な減少が重要な課題で、それに対応すべく今、海外との交流人口の拡大に取り組んでいます。本学も小さい地方の教育大学ですが、本当に多様な国籍の教育関係者が半年などの単位で研修を受けていらっしゃいます。非常にたくさんの国の方がいらっしゃっているのですが、このように日本に来た海外の方などが地域のことを知る手がかりとして、もっとローカル局の放送が見られればと感じています。今、起こっている地域の情報を得ていただく手段として使えたらなと思います。今は日本語でしか放送していないので、なかなか難しいと感じています。

また日本のドラマ・アニメなどに触れて日本のファンになっていただくみたいな、大切な手段としても、放送コンテンツがどんどん海外の人に触れていただく機会として活用できればと思っています。さらにローカルでの視聴環境、ローカルのコンテンツの活用などもできればと感じているところです。

2点目がプラットフォームの整備ですが、利用者の方がNHKと民放の様々なコンテンツを見つけることができる、一覧性のあるプラットフォームを整備してほしいというのが取りまとめ

でてきた意見で、仮想的な形だとは思いますが、構築していくことをぜひ進んで取り組んでいただくことが重要だと感じています。

その際に、このAIなどの技術を利用して、低コストで多言語対応ができるようなプラットフォームをぜひ考えていただいて、それで地域で多言語の放送が見られるみたいなことをしていただきたいと個人的には希望しています。

取りまとめ案でも実証事業を今年度から実施して、来年度をめどに技術仕様を策定すべく検討とありますので、この目標の実現に向けてぜひ検討をどんどん進めていただけたらと思っております。

【仙北構成員】

前回のタスクフォースで、今回の議論のキーワードは連携を密にするとか、関係者がコミュニケーションをよく取るということだと申し上げたところですが、この点、今回の取りまとめ案を拝見しますと、「今後の進め方」として、「これまではお互い必ずしも関係が密でなかった場合も含めて関係者の範囲を捉え直し、その新たな関係者間においてコミュニケーションを取り、互いの課題を共有することから始めることが肝要である」との記載が、まさに私の発言を反映いただいたところかなと思いました。ありがとうございました。

このタスクフォースで様々な団体、事業者からお話を伺って、勉強になりました。既にコラボレーションの可能性というのを感じることができたと思っております。例えば国際放送についてBEAJとJIBの件などは、具体化していくのではないかと期待が高まります。

また前回、クロサカ構成員がおっしゃっていた言葉をお借りすると、NHKと民放も出自、成り立ちが違うことがまず前提であり、こうしたNHKと民放がどのような面で協調できるのか、違いはあるけれども協調できること、あるいは個別に取り組むべきことは何かということについて具体的に議論が進んでいくとよいと思いました。

今後、タスクフォースでの議論を踏まえて事業者間の連携を次の段階に進めていただき、時代の要請に合わせて放送の価値を世の中に広げる取組を進めていただければと思います。今回のタスクフォースは、取りまとめに事務局の御苦勞が窺えますが、一定の結論が出たということで大変有意義だったと感じております。

【曾我部構成員】 ※ご欠席のため、事務局にて代読を行った。

これまでの検討に関する所感でございます。

多岐にわたる課題を短期間で集中的に議論する本タスクフォースの試みは、当然ながら積み残し

はありつつも、今後の検討に向けた方向性を打ち出し、各課題の検討のためのモメンタムを作り出す点で意義があったものと思います。

今後の検討に対する課題や期待でございます。前述のように、今回の取りまとめは方向性を打ち出したものにとどまり、個別の論点の掘り下げは今後の検討に委ねられています。そのために取りまとめはNHK及び民放をはじめとする関係者による協議の場の設定を求めており、こうした場が早急に設定されて議論が進むことを期待しています。これまでの放送に関する制作においては、放送事業者の自主自律が殊のほか尊重されてきました。そして関係者のこれまでの相互の信頼関係の程度やそれぞれの思惑によって、事業者間の協議が進まないことが見られがちではなかったかと思えます。

そうした中で、一方ではグローバルな動画配信サイト、他方では動画共有サービスからの挟撃を受けて放送業界全体の存在感が低下していることは周知のとおりであり、改革はいよいよ待ったなしの状況です。本取りまとめの末尾にあるように、放送業界には健全な情報空間の確保という社会的役割に対する期待に積極的、かつ持続的に応えていくことが求められていることを認識し、個社の利害に過度にとらわれることなく、国民の知る権利に応える放送の使命を全うするため、一丸となって精力的に検討を進めていくことを強く期待します。

【長田構成員】

各構成員がおっしゃっていたように、短期間に非常に濃い情報をいただきながら議論ができたと思っています。ただ、まだ課題が解決したわけではないということで、それを踏まえて私の感想を申し上げたいと思います。

放送というのは、本当に長い時間をかけて信頼がおけるもの、安心なものとして我々の身近なところにあると思います。それは特にローカルの放送局の番組などは、その存在そのものが地元の皆さんにとっての非常に安心できる存在と考えています。それがインターネットの世界に出ていくときに、いろいろなコストや人材の問題などでなかなか厳しい状況にあることも分かりましたけれども、やはり今、考えてみると、時代が変わっており時代の要請と言いますけれども、何よりも我々の暮らしが変わって、テレビだけではなくいろいろなものでコンテンツを享受するという暮らしの変化の中に、安心できる放送のコンテンツを多くの人に届けていただきたいのが受信者としての強い気持ちだと思っています。それをぜひ実現をするために多くの関係者の方々が力を合わせていただければいいと思っています。

このタスクフォース以外でも、どうしても自分たちにとってどうなのかという考え方をそれぞれのお立場の方々がお話されていますけれども、連携で力を合わせて実現してほしいということが今

回のまとめにも書かれておりました、みんなで先の世界にきちんと呼応できるような仕組みを積極的に、そして率直な意見交換をしながら実現をしていこうという大きな合意が生まれれば良いと思っています。

日本のコンテンツは本当に素晴らしいと思いますので、力を合わせて日本国内、どこでもそれを受け取ることができるし、また海外の方々にもそれをぜひ見ていただく、そういう世界が来れば良いと思っています。

【松下構成員】

これまでの検討に関する所感ですけれども、今回タスクフォースは議論の材料として各課題に関して、NHKに加えて民放連やローカル局など様々なプレーヤーから直に、それぞれの御視点からのものの見え方、それから課題認識をヒアリングとしてしっかりと聞くことができ、大変参考になったと存じます。視点の違いにより御意見が異なっている部分もあれば、実は互いに同じ必要性を感じていらっしゃる部分もあって、継続的なすり合わせや意見交換の必要性というのを強く感じた次第です。

また、NetflixやTVerによるプレゼンテーションなど、現状、皆様が取り組まれている中からの気づきや課題感というところで、今後の本タスクフォースの継続的な検討に資するヒントをたくさんいただける内容もございました。私は消費者マーケティングを日々実施しておりますので、生活者の方々の価値観、行動変化ですとかメディア接触状況など日々追いかける中、特に今回、放送コンテンツのネット配信というような、課題の一つの中にありましたけれども、ネット配信につきましては若い方を中心にテレビ離れというのが大きく進んでいて、この情報空間のゆがみの影響は非常に強く危惧しているところでございます。

本タスクフォースの検討がこうした変わりゆく情報空間において、こうしたゆがみも受けてしまっているような消費者の方々にあまねく偏りなく、良質かつ多様なコンテンツをお届けするためのプラットフォーム構築のための道標という重要な役割を担っているものと認識しておりますので、参加させていただきましたことを非常に光栄に思います。各構成員の先生方の御意見も本当に勉強になりました。

今後の御検討への期待ということですが、時代の変化が本当に速くて、今回御提示いただいた各課題についてももう刻一刻と重要性を増しているかと存じます。その中で今回のタスクフォースと今後の検討というのは、先ほども申し上げましたけれども、今の時代に生きる生活者の要請に基づいて実施されていくものだとの認識をしております。

冒頭御指摘いただきましたとおり、コンテンツ消費、コミュニケーションの中心が伝統メディア

からインターネットに変わる中で、消費者の方々の情報摂取も日本国内、放送業界に閉じたものではなくなっています。そのため、コンテンツ商品の競争環境という意味では国内放送のみでなく、海外勢や一般視聴者配信のコンテンツも含めたものによって変わってきていますので、国内二元体制というところがありますけれども、その二元体制の中、NHK、民放、手を携えて日本の放送業界をより良いものにして海外へも発信していただくことが重要だと改めて感じました。

もう一度申し上げたいところが、本検討の最終ゴールがやはり生活者の方々に良質かつ多様なコンテンツを、それともう1点、先ほど落合構成員からも御指摘ありましたけれども、ビジネスとしての持続可能性を持ってお届けするようなところに尽きると思います。

様々な御検討事項が残るとは存じますけれども、生活者へのベネフィット提供というゴールを見失わないように、ぜひスピード感と実現への強いエネルギーを持って積極的にお進めいただければ幸いです。

【三友構成員】

報告書を拝見しますと検討会、親会及びワーキングで検討し切れなかった内容につきまして短い時間に集中的に議論を進めていただきまして、かつ、一定の方向性を示していただいたことに大変感謝しております。

(1) から (5) まで、これらはいずれも重要な課題ではありますが、私はこれまで (1) と (5) について意見を述べるが多かったと思いますので、今日もこの2点について意見を少し申し上げたいと思います。

まず、1番の地域放送の放送ネットワークインフラの効率化についてですが、これは本当に喫緊の課題であります。特にネットワーク投資、あるいは維持に関する負担が大きい地域、例えば広大なエリアエリアを抱えているとか、あるいは離島を抱えている、こうした地域においては設備更新や維持管理が大きな費用負担となっているわけです。

他方で今、地域の放送事業者の多くは収益性の面で大変難しい状況が続いているのは御存じのとおりであります。取りまとめ案の3ページには、地域及び全国レベルの協議の場を設けるべきとあり、かつ、脚注5には少なくとも全国レベルの協議の場は年内を目途に設置すべきとの提言がなされておりますけれども、地域ごとの特性を考慮して、緊急度の度合いが高ければ全国レベルの協議の開始あるいはその結果を待つことなく、地域レベルとの協議を速やかに開始すべきであろうと思います。特に地域によっては協力体制ができているところもございますので、速やかに協議を進めることができればと思います。

その際、あまねく供給義務を有するNHKが果たす役割というのは非常に重要だと思いますので、

地域レベルの議論においてもNHKが協力的、かつ主体的な役割を果たすことを期待しております。NHKがどのような役割を果たし得るのか、あるいは果たすべきかにつきましては民放との協力を非常に大きな影響を与えますので、この点は第一優先で具体化すべきであろうと考えます。

次に5番、国際発信の強化についてですけれども、日本の情報や日本の視点から見た世界の情報を海外に向けて発信する国際放送の役割というのは非常に重要でありますし、本タスクフォースでも一致した意見だったと思います。他方で、海外においても人々の生活スタイルは変わってきて、インターネットに依存し、かつスマートフォンが大きな軸となってきておりますので、単純にテレビ向けの国際放送だけでは海外に対しての情報発信の効果があまり高くないと推測されますし、またこの傾向は今後も続くものと考えます。

国際発信のためには、やはり海外の人々に見てもらうことが重要でありますので、インターネットによる配信の強化ということを急ぎ進めることが必要と考えます。取りまとめ案の12ページには年内を目途に中間報告とありますけれども、国際放送のインターネット配信につきましては、その必須業務化ということの可能性も含めて、この中間報告に向けてできるだけ早急に議論を進めていただければと思います。

また、同じ12ページですが脚注の12に、総務大臣がNHKに対して実施を要請する放送というのがございます。こちらについてもより効率的、あるいは効果的に行うとの観点からすれば、インターネットを活用するということも考えられると思いますので、これにつきましても順次検討を進めていただけるとよろしいかと思っております。

【日本放送協会 前田経営企画局長】

先生方の6回にわたる精力的な御議論は大変示唆に富むものであり、私自身とても勉強になりました。NHKを含む伝統メディアは、これまで果たしてきた社会の基本情報の共有といった役割について、インターネットを含む情報空間全体の健全化などの観点から、改めて何ができるか、何をすべきかが問われているのだと思います。これについてNHKとしては、信頼できる基本的情報を提供するために質、量ともに充実させ、併せて世界に通用するニュース・コンテンツの提供に努めていきたいと考えております。

その上で、伝統メディアが切磋琢磨することで質を高めていく多元性確保に向けて、NHKが具体的に貢献していくことも大切だと考えております。このため、本プラットフォームタスクフォースで議論されました、厳しくなる経営環境の下でより効率的な地上放送ネットワークの構築に寄与する役割、衛星放送のプラットフォームなどでコンテンツ創造を支える役割、地域コンテンツ等を情報空間に展開する役割、日本の魅力や日本の視座を世界に伝える役割につきましても、NHKとし

でも放送業界全体の発展に貢献できるよう、引き続き取り組んでいきます。

その際には、二元体制の一翼を担う地域ローカル局も含めた民間放送事業者やNHKの多様な番組をつくり上げる大切なパートナーである外部制作事業者とも丁寧に対話をしながら、連携を深めていきたいと考えております。

【一般社団法人日本民間放送連盟 堀木専務理事】

冒頭から大谷構成員はじめ、皆様が指摘されているとおり、制作会社や、それから動画配信事業者、それから海外展開関係、その他幅広い放送関係の皆様がヒアリングに応じて意見を開陳し、そのことが取りまとめに反映されている。私はこの点が一番意義深いことではないかと考えております。二元体制のもとで放送全体を支える、放送全体を支援していく、そうしたNHKの役割が改めて議論をされ、明らかになったことも、大変意義のあることだったと思います。その上で、今後の期待と課題について3件お話をいたします。

1つ目は地上放送の放送ネットワークインフラについてです。民放連はかねて経済合理性の確保、しかも継続的な経済合理性の確保と、それから地域事情の配慮が大切だと申し上げております。こうしたことを踏まえて、今後協議の場が設けるべきだという御提言がありました。こうした視点もぜひ踏まえて、私たちも議論に参画していきたいと考えております。

2つ目に、インターネット配信であります。これも皆様が多様な意見を述べられました。その中で実証事業について提言がございます。実証事業におきましては、そのような新しく御検証される技術の実証性についてしっかり議論をしていただければと思います。主に有効性とか、それから汎用性ですね。特に汎用性についてもしっかり議論をしていくことが重要だと思います。

3点目に、視聴データの活用についても何人かの構成員の皆様が言及をされています。8ページにネット配信のところで言及があったのですが、先ほど来お聞きしていると放送本体、今、ネット媒体と激しく競合して広告放送も頑張っているところですが、こうした広告放送の将来を確かなものにするためにもネット配信だけでなく放送本体、放送における視聴データの活用についてもぜひ進めていただくことを念頭に置いて、これからの議論、検討が行われればと思います。

繰り返しますが、民放事業者と民放連もこうした検討に、それから議論にまた参画させていただきたいと考えておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

【内山主査】

準備期間を含めて間違いなく半年もなかったところで、このタスクフォースは動いていたと思います。その中で非常に濃密に議論をしていただいた構成員の皆様と、気配りいただいた事務局の皆様

様に感謝を申し上げたいと思います。

取り扱ったアジェンダは、専らB to Bの内容でございました。その是非においては、国民目線を入れて方向性を定める形になったかと思えます。プロの方から見れば歯がゆい場面というのも多々あったらと思います。詳細の詰めはこれからと御理解をいただきたいと思えます。

視聴者目線での具申がどの程度プロの方々に刺さったか分かりませんが、確実に言えることは、国民はまだ放送産業に対する期待を依然持っているということです。もしそうしたものがなくなってしまうと、こういった会議体も今後開かれることはないでしょう。外野からとにかく、あれこれ言われるうちが華ですよと申し上げたいと思えます。

初回に私が資料の中で出しましたけれども、今のままではもはや放送は成長産業ではなく、今後事業収益的にはますます厳しくなっていくことは確実だと思えます。放送は20世紀のうちに究極に効率的な多面市場ビジネスモデルを確立しました。昭和や平成の基準でもうかる、もうからないと言っていたら、他産業との競争等の中で典型的なイノベーションのジレンマに陥る可能性は十分高いと危惧いたします。挑戦する姿こそ、若い人材あるいはスタッフを集める原動力にもなります。また、個社で頑張るだけでなく、業界挙げてネットワーク外部性を生み出していくことも有効打になると思えます。

そうした意味で、本タスクフォースの初回に申し上げた言葉を繰り返したいと思えます。ぜひプロの皆様におかれましては、今後も前向きに取り組んでいかれることを期待して、この会議の締め言葉としたいと思います。

(3) 閉会

事務局から、伝達事項の連絡があった。

(以上)